



(左) 吉川さん (右) 和泉さん

自然にお話できて良いですね。週に1回の活動が、生活にメリハリを与えてくれます。時には、あまりルール通りでないごみの出し方をされることもあるようですが、「自分がやってみるといろいろなお話がわかるから。子育てや仕事をしているときは、そのことがむしろよかったけれど、自分の順番なんだなって」。和泉さんの任期はこの3月まで。次の方にバトンタッチすることで、活動の輪はしっかりと広がっていきます。

コロナ禍で、地域で集まっていた活動ができない分、防犯の啓発チラシなどを配布しています。防犯啓発物などを玄関先に掲出すると防犯効果も高いようで、一人暮らしの方に渡すこともあるとのこと。また、青パト活動中の車内換気のため、サーキュレーターを積み込むなど、コロナ禍でも工夫して活動を続けています。座右の銘は「人の振り見て我が振り直せ」。



平成4年から先輩の勧めで明倫学区の防犯活動を始め、平成17年からは自慢の愛車クラウンに青色回転灯をつけ、「青色防犯パトロール隊長」として活動。愛車を提供することに抵抗は？との問いに「これはやった方がいいと思った。だれがやるとかではなく、自分がやらなきゃと思った」と熱い思いで答えます。この青パトに当初妻は「何つけとるの!？」と驚いたそうです。活動では人を不安にしないため、後ろからでなく、正面から顔を見せてパトロールすること、無理強いしないことの2つをモットーにしています。



愛車とまちのパトロールへ 村松 教男さん 76歳

砂田橋学区で交通安全推進委員長をしている首藤さんは現役時代、半導体製造装置などの営業で全国転勤していました。定年前に赴任した縁で名古屋に在住。地域活動は65歳から始めました。自治会長になったことを皮切りに、交通安全や福祉推進協議会委員、今では学区の広報、企画などもこなすほど、精力的に地域活動に取り組んでいます。その体力は70歳まで続けたマラソンで築かれたもの。長年営業で培われた、人への心遣いや対応力、そしてパソコンのスキルは資料づくりなどで、現役時代の経験が地域活動に生きています。福祉推進協議会委員の活動が縁で、今はNPO法人の職員として、高齢者や認知症関連などの福祉分野で働いています。製造業の営業と福祉は全く異なるようにみえます。けれど、相手が何を望むかを理解することはどちらも同じ。コロナ禍で、より深刻になっているフレイル（虚弱）。砂田橋学区で



現役時代のスキルを 地域のために 首藤 眞宗さん 77歳



※青色防犯パトロール（青パト） 自動車に青色回転灯を装備した 自主防犯パトロール

「人の行動を見て、あのようになりたいとか、気をつけなければと思うことが大事。それが防犯につながる」と村松さんは笑顔で語ります。

地域デビュー してみませんか この「まちの達人から学ぶ」を読んで、地域活動に興味を持ったあなた! 「地域デビュー」してみませんか。地域にはさまざまな課題があります。自分ができることをできる範囲で貢献してみたいかがでしょうか。お住まいの自治会や町内会の役員さんに相談するのも、学区のコミュニティセンターを訪ねてみるのも、私たち東区役所地域力推進室にお電話いただくのもOKです。きっと新しい出会いや楽しさが見つかりますよ。

【コロナに負ける砂何でもトライ、チェックシート】 合同でも良いので自分の出来る事を実行して下さい【トライ内容自由】 トライ期間→(4月10日～6月10日まで) 参加対象者→砂田橋学区在住【自治会加入者限定】 会費/活動費/交通費は各自負担【自己申告方式】



フレイル予防の取り組み

交通安全運動の様子

は過去に、フレイル予防の行動を重ねたら、粗品を進呈する取り組みをし、その際は60人超の参加者があったとのこと。この取り組みにも関わりました。「支援が必要な高齢者、子育て世代など本当に支援を必要としている人を助けたい」その思いが首藤さんの指針です。